

3. 3 博士前期課程の履修方法

■履修スケジュール

2年間の履修と研究は次のように進められる。

1 年	入学を許可された学生は、年度始めのガイダンスの後、指導教員の指導と承認を経て、履修する授業科目を選び、履修登録を行う。1年次は、専門科目が履修の中心になるが、同時に数学、物理、化学などの専門基盤科目の履修を行う。さらに、研究課題を自ら見つけ、その研究課題の解決へ立ち向かえる能力を育成する特別演習と特別研究を履修する。	
	4月	入学式とガイダンス・指導教員の決定 履修計画・履修登録
2 年	7月	前期定期試験
	9月	研究計画提出
	2月	後期定期試験
	2年次には、特別演習および特別研究を引続き履修し、特別研究を通して修士論文の作成に進む。修了のためには、所定の30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。	
2 年	9月	特別研究中間発表 修士論文作成要領説明会
	11月	学位論文審査願の提出
	2月	修士論文と修士論文要旨の提出・審査

■履修計画

課程修了には30単位以上の履修が必要である。各専攻の履修モデル図をp39～p41に示す。履修計画立案の参考とされたい。

本大学院では、他専攻の授業科目を8単位を超えない範囲に、また他大学大学院の関連する専攻の授業科目を10単位の範囲で修学取得することを認めている。

ただし、本大学院に入学前に修得した単位があるときは、この単位を合わせて10単位以内とする。

さらに次のようなことを定めている。

- ・在学期間に関して、優れた業績を挙げた者については、1年以上在学すれば足りるものとしている。
- ・工学研究科委員会が課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査をもって論文の審査に代えることができることとしている。これについては、次のような場合に適用する。
 - ① 特定の研究課題について、権威ある学協会等において内容の審査を受けた学術論文が複数ある場合
 - ② 特定の研究課題について、官庁、公設研究機関等から委託された公的調査研究報告書が複数ある場合
 - ③ 社会基盤工学専攻に在籍する学生が、修士学位設計内規に従って制作した修士学位設計を提出した場合
- ・工学研究科委員会が課程の目的に応じ適当と認めるときは、「博士論文研究基礎力審査」をもって、学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に代えることができることとしている。